

事業所における自己評価結果(公表)

公表: 令和6年 3月31日

特定非営利活動法人ビーポップ

	チェック項目	はい	どちらともいえない		工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
			いいえ	いいえ		
環境体制整備	① 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	6				
	② 職員の配置数は適切である	5	1			
	③ 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	6			スロープ、車いす対応のトイレなど	
業務改善	④ 業務改善をすすめるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	1	4	1		
	⑤ 保護者向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し業務改善につなげている	6			保護者の意向は常日頃から聞くようにしている	
	⑥ この自己評価の結果を、事業所の開放やホームページ等で公開している	6				ホームページ上に公開している。
	⑦ 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	1	1	4		
	⑧ 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	6				外部研修への参加や事業所内での研修など少しずつ行えるようになってきた。
適切な支援の提供	⑨ アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で放課後等デイサービス計画を作成しているか	5	1			
	⑩ 子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	5	1		ムーブメント教育法で用いられている「MEPA」をもとにしている	
	⑪ 活動プログラムの立案をチームで行っている	2	4			
	⑫ 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	5	1			
	⑬ 平日、休日、長期休暇に応じて、課題を決め細やかに設定して支援している	3	3			
	⑭ 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	4	2		集団活動をメインに、その中で個々の力にも注目している。	
	⑮ 支援開始前には職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	2	1	3	役割分担はあえてつくっていない。	
	⑯ 支援終了後には、職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	2	3	1		支援後は送迎もあるため、打ち合わせができていない。が、振り返りや気付いた点の共有は適宜している。
⑰ 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	6			日誌を記入。活動の記録を取り、次につながるような、また成長をみれるようにしている。		

	⑱	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	5	1			
	⑲	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ、支援を行っている	1	5		日常生活充実のための活動、また余暇の提供などを行っている。	
関係機関や保護者との連携	⑳	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもにの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	6				
	㉑	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	6			学校との情報共有としてメール・リストの登録などしている。	
	㉒	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等との連絡体制を整えている		4	2	かかりつけの病院、医師名、対応などを確認している。	現在、医療的ケアが必要な方の利用はないが、必要な場合は連絡体制を整えるようにする。
	㉓	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解を努めている		3	3		現在、対象児童がいない。
	㉔	小学校卒業後、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	1	5			情報共有が必要な方がいれば、支援者会議に同席している。
	㉕	児童発達支援センターや発達障害支援センター等の専門機関を連携し、助言や研修を受けている	1	3	2		モニタリングなどで話をする程度で、かかわりは薄い。が、研修は積極的に受けるようにしている。
	㉖	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	3	3		活動に、障害のない兄弟・姉妹が参加するようになった。	児童館との交流なども、希望する方が出てくれば、検討する。
	㉗	（地域自立支援）協議会等へ積極的に参加している	1	2	3		
	㉘	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	6			ノートによる申し送り、送迎時あった時には直接口頭で伝えるようにしている。	
	㉙	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	1	3	2		必要とされる方がいれば行う。
保護者への説明責任等	⑳	運営規定、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	6			利用開始前に書面と合わせて説明。	
	㉑	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	4	2		保護者のレスパイト的な役割も担っている。	
	㉒	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	1	2	3		父母の会の活動がない。
	㉓	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	5	1			体制は整備されているが、子どもや保護者には周知できていない。
	㉔	定期的に会報等発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	6			毎月、機関誌を発行している。	
	㉕	個人情報に十分注意している	6				

	③⑥	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	6				
	③⑦	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	3	2	1		
非常時の対応	③⑧	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	4	2			マニュアルはあるが、職員までの周知に留まり、保護者には周知できていない。
	③⑨	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	1	5			年に1回の講習会を行っていたが、今年度はできていない。 避難経路の確認のみ。
	④⑩	虐待を防止するため、職員の研究機会を確保する等、適切な対応をしている	6			適宜、講習会に参加している。	
	④⑪	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	2	3	1		
	④⑫	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がなれされている	2	4			対象となる児童がいない
	④⑬	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	2	3	1		